

広島県地域リハビリテーション広域支援センター 医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院
**広島市西区 地域介護予防拠点整備促進事業における
 リハビリテーション療法士情報交換会**

H28.9.13(火)、広島市西区地域福祉センターにて、現在広島市西区で行政・地域包括支援センター・リハビリテーション専門職が協働し、積極的に取り組んでいる地域介護予防拠点整備促進事業について、区内内の医療機関・事業所に従事するリハビリテーション専門職が集まり、情報交換会を開催しました。25名の療法士が参加、1時間15分という、限られた時間の中で、活発な意見交換ができ、有意義な時間となりました。内容の一部を、以下にご紹介します。

第1部 話題提供



広島市西区厚生部健康長寿課高齢福祉係 保健師 松浦貴子氏より、広島市地域介護予防拠点整備促進事業について「～リハビリテーション専門職との協働～」について話をいただきました。
 『通いの場では、療法士による虚弱者、継続支援が必要な方の見極め、虚弱な方の個別的な指導、住民への動機づけなど、専門的な視点からのアドバイスが非常にありがたい。この住民主体の通いの場づくりや地域ケア会議を通して住民の自立支援を強化し、包括的に地域ケアシステムを進めていく中で、療法士の専門性が必要、今後も引き続き、力を貸してほしい』



続いて、荒木脳神経外科病院 理学療法士 佐藤優子より、「広島市西区における行政・地域包括支援センター・療法士の協働の実際」について、話題を提供させていただきました。

荒木脳神経外科病院は、広域支援センターとして、西区の療法士への情報提供を行い、より多くの療法士が活動に参加できるよう支援していきます。

住民主体の通いの場作りにおける支援のポイントは、①住民のやる気を引き出す ②効果的な体操の指導 ③虚弱者への支援 ④継続した活動への称賛です。
 まずは、見学から、一緒に取り組んでいきましょう。

第2部 グループワーク

テーマ：実際に継続した支援をする為に必要なこと
 ～各施設・事業所で、また全体でどのような工夫ができますか？～



通いの場作りには積極的に関わりたいが、現在はプロボノ。職場への理解を深めていく必要があり、最近、市の広報誌やTVでも取り上げられているので活用したら良い。プロボノは継続した支援ができるか、不安もある。メーリングリストで、情報を共有し、活動できるときに手が挙げられるのは良いと思う。



訪リハ・通リハの利用者にも、通いの場に参加している方がいる。介護度が高い方は難しいが、利用者のご家族等をつなげることも良いのではないかと。通いの場は、地域特性に合わせた関わりが必要。場所に関して、スーパー等の場所を提供される等新しい動きもでている。サ高住など、施設を集いの場の拠点とし、地域の方にも声かけする等も良い場になるのではないかと。



いつでも誰かが通いの場に同じように介入できる体制づくりが必要と考え、その為にはまず見学、支援の具体的な動画やマニュアル、研修会で実際のプレゼンや体操をしてみるのも良いのでは。また、包括との打合せ、初回プレゼン、3カ月後フォロー通して見学した方がより具体的にわかる。休日の活動は遠方でも可能、メーリングリストなどで情報は把握したい。



療法士の大半が個別リハを実践しており、集団を指導する技術が少ない、見学を通して学んでいく必要がある。まだまだ通いの場に対する情報は不十分で退院支援、サービス卒業の支援を通して通いの場を知っていくことが重要。支援中の転倒や事故など、リスクにおいても考えておく必要がある。



施設内での勤務と支援日の調整が難しい。同じ圏域内でフォローし合う、横の連携の強化が必要。地域特性等も情報共有するため、報告書の活用などできるか。継続支援ができるよう、所属施設に話しておくことも大切。サポートセンターへの手挙げも、地域貢献へ繋がる、公文書を依頼するなど可能になるのではないかと。